授業者も参加者も創る!!高まる!!広げる!!

西部の国語の未来へバトンをつなぐ

令和３年１月発行
西部教育事務所

本年度から新しく複式授業づくり講座がスタートしました。学習指導要領が目指す授業づくりを四万十市立利岡小学校が複式学級の国語科で研究しました(10 月 14 日 教材研究会、11 月 19 日 授業研究会)。

学　年　：3学年
単元名　：「伝えたいことを話そう」～わたしのすきな時間～
言語活動：自分の好きな時間について、好きな理由やどんな時に好きだと思うか話の中心が伝わるように４年生にスピーチする。

学　年　：4学年
単元名　：「伝えたいことを話そう」～心に残っている出来事～
言語活動：身の回りで起きた出来事について３年生に伝えるために、その時の様子や気持ちに合った声の表情を工夫してスピーチする。

授業者　３・４年担任
市原　百梨佳　教諭

西部管内の講座関係　ＨＰ

利岡小学校からの提案：「同じようにできるところは、同じようにしよう」(同領域・同時指導)

言語活動を通した単元づくり～問いを持ち続ける学習過程～

単元を通して言葉による見方･考え方を働かせるためには、目的意識･相手意識に基づいた問いを持ち続けることが大切です。これは、単式学級でも複式学級でも同じです。複式学級の場合、領域をそろえれば、学習過程もそろうので、共通の言語活動を設定した授業づくりが可能となります。そうすることで、領域をそろえず、学習を進めていく場合と比べ、直接指導の機会が増え、学習指導の効率を高めることにつながります。また、同領域で共通の言語活動を設定することで、２学年の児童が共通の大きな問いを持ち、その問いを一緒に解決していくことができます。今回、市原教諭は児童の実態を踏まえて、教師が指導すべきところと児童に任せるところをどう組み合わせるのかを考え、あえて学習過程の一部をずらしました。このように、児童の実態に合わせて工夫することも大切です。

共通の大きな問い：どのように話せば、相手に自分の思いや考えがうまく伝わるのかな？

伝えたいことを話そう

	3年　話すこと・聞くこと		4年　話すこと・聞くこと
話題の設定	①単元のゴールを知り、学習の見通しを立てる。		①単元のゴールを知り、学習の見通しを立てる。
情報の収集	②話題を決めて、話す材料を集める。		②話題を決めて、話す材料を集める。
内容の検討	③材料の中から話すことを選んで組み立てる。		③話を組み立てる。
構成の検討	④スピーチの練習をする。		④スピーチの練習をする。
考えの育成			
表　現	⑤４年生の前でスピーチする。		⑤３年生の前でスピーチする。
共　有	⑥単元の振り返りをする。		⑥単元の振り返りをする。

共通の小さな問い：
- どんなことを話せばよいかな？
- どんな順序で話せばよいかな？
- どのように話せばよいかな？

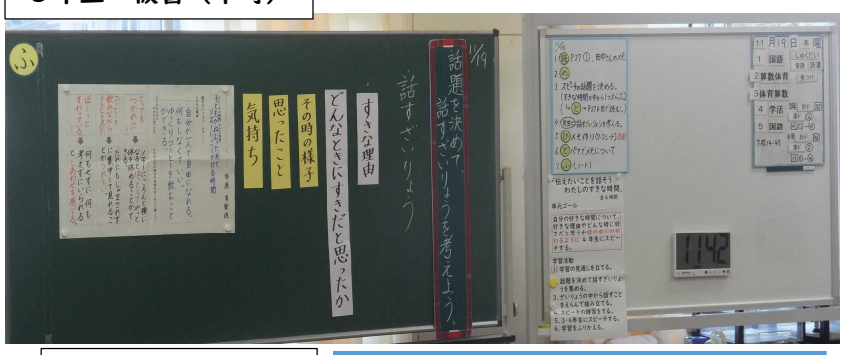
同領域
→ 共通の言語活動（相手・目的・方法・場）
→ 共通する見方・考え方
→ 三年：学びの見通し／学びの振り返り：四年
→ 同時指導の機会が増える

言葉による見方・考え方を働かせる～思考対象と言葉～

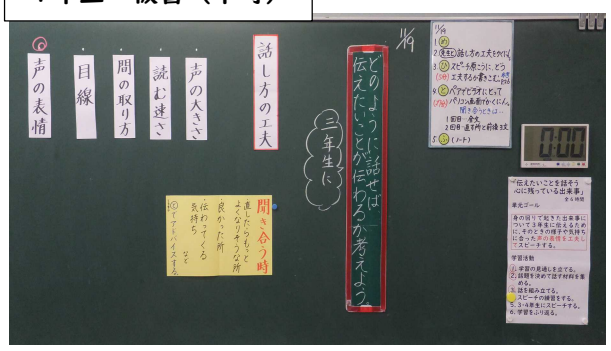
本時の「言葉による見方・考え方」

対象	捉え直し／問い直し	言葉
スピーチ	この材料で自分が伝えたい話の中心が相手に伝わるかな。	理由や事例
スピーチ	この話し方で、出来事の様子や気持ちが相手に伝わるかな。	強弱・抑揚をつける言葉など

３年生　板書（本時）



４年生　板書（本時）



友達からの質問を受け、伝えたい時間が好きな理由を、どんな時に好きだと思うか、具体的にその時の様子や気持ちを思い出しながら答える姿が見られました。相手のことを踏まえた理由や事例になっているか考えることにつながっていました。

３年生の授業風景

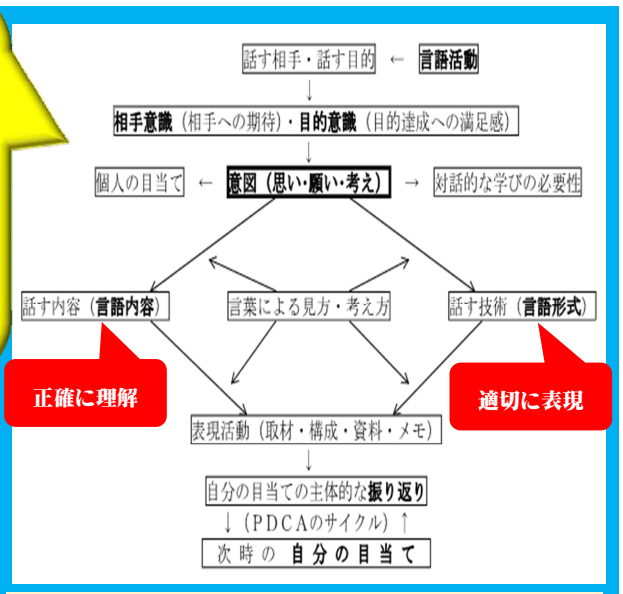
1回目と2回目のスピーチを強弱や抑揚をつける言葉･文章などに着目してビデオで比較することを通して、言葉による見方･考え方を働かせて、相手に伝わる話し方を考えていました。(ICT 活用)

４年生の授業風景

講師による助言・講話より

授業づくり講座（複式）講師
前鎌倉女子大学教育学部准教授
松永　立志　先生

メタ認知を進めるには、子供が学習へ向かう時の「意図（思い･願い）」が不可欠です。児童がその意図（思い･願い）を持つには、具体的な「相手意識･目的意識」を持つことが大切であり、相手意識･目的意識を持つには、適切な「言語活動」を設定することが大切です。



複式学級における国語科の授業づくりのポイント

(1) 主体的に学ぶ子供（＝思考力を働かせる子供）の育成
- ○「共通のめあて」を踏まえた「個々のめあて」と、その振り返りを設定することは、児童の主体的な学びにつながる。
- ○話すこと･聞くことにおける学習では、誰に何をどのように伝えるのか、相手にどう思ってもらいたいのかなど、「学習者の意図」が重要になる。その「学習者の意図」が、子供の相手意識･目的意識につながる。
- ○子供自らの言語能力を自覚させることが大切である。子供が自らの学習状況を把握し、自らの学習を調整しながら学ぼうとしていることは、主体的に学習に取り組む態度を評価する材料の一つになる。
- ○言語活動のゴールに向けた課題解決的な学習（情報の収集、整理･分析）は、情報活用能力の育成につながる。
- ○学習内容については教師が指導する、学習方法（方法、時間）については学習リーダーを活用するなど、教師が指導すべきところと子供に任せるところの組み合わせを考える必要がある。

(2) 学年別指導（複式指導）と同単元指導（二本案･一本案）の工夫
- ○学習指導要領の指導事項の設定については、教科書単元の系統性、子供の実態、子供の「言語活動履歴」を踏まえて設定することが大切である。

国語科の授業づくりのポイント

(1) 教科目標の具現化に向けた教材研究
- ○インプットするもの（正確に理解）とアウトプットするもの（適切に表現）を明確にし、最適な言語活動を設定するといった育成する資質･能力と設定する言語活動と教材との整合性を図ることが大切である。

(2)「話すこと･聞くこと」の学習指導について
- ○音声言語の特性を踏まえた録音･録画機器の活用は効果的である。必要に応じて何度も再生可能になり、子供や教師の評価に活用できる。

参会者の感想（授業研究会）

- 授業づくり講座に、複式が位置付けられたことを有難く感じています。
- 校内研で、単式でも複式でもやれることから提案し、目を輝かせて主体的に学ぶ子供を育てていきたいと思う。
- 複式だからこそできることを見付け、子供の深い学びにつながるような活動を取り入れていきたい。
- 現在、2･3年生の複式学級の担任をしているので、国語科の指導で一度合わせて、2･3年生の交流を設定した授業づくりをしてみたいと思いました。